

# 第34回 日本・ASEAN経営者会議 「日本とASEAN: 共通の未来のための関係強化」 (2008年11月2～4日、ブルネイ)

Keizaidoyu Express

**20** 08年11月2～4日、「第34回日本・ASEAN経営者会議 (AJBM)」が、ブルネイの首都バンドル・スリ・ブガワンで開催された。日本からは桜井正光代表幹事をはじめ15名が、ラオスを除くASEAN 9カ国からは100名超が出席した。今回のAJBMは、「共通の未来のための関係強化」をメインテーマとし、3つのセッションを中心に意見交換を行った。開催国ブルネイのシャザリ・スレイマン氏が議長を、本会副代表幹事・アジア委員会委員長の萩原敏孝氏が共同議長を務めた。

## 1. プレオープニングセッション

開会式に先立ち、プレオープニングセッションが開かれた。テーマは「日ASEANパートナーシップの促進：産業界は経済連



携をどう有効活用できるか」で、玉越良介氏が議長を務め、パネリストとして日本側からは山口千秋氏が参加した。討議の中で山口氏は、「自動車市場を考えると、ASEAN FTAを活用することでグローバル生産拠点に発展させ、規模の経済を最大限生かすために、ASEANはひとつの市

場としてまとまっていることが重要だ。また、EPAやそのほかの協定を活用するために、環境・安全・知的財産権などの基準の標準化にも取り組むべき」との見解を示した。

## 2. 開会式

開会式では、初めにシャザリ・スレイマン議長があいさつ

## 日本側参加者

※役職は会合開催当時

### 【代表幹事】

桜井正光 (リコー 取締役会長執行役員)

### 【アジア委員会委員長 (第34回AJBM共同議長)】

萩原敏孝 (小松製作所 相談役・特別顧問)

### 【アジア委員会副委員長】

佐藤龍雄 (昭和電工 取締役専務執行役員)

菅田史朗 (ウシオ電機 取締役社長)

竹中哲也 (日本航空 取締役副社長)

玉越良介 (三菱UFJフィナンシャル・グループ 取締役会長)

山口千秋 (トヨタ自動車 常勤監査役)

### 【メンバー他】

沖見勝也 (米輸商事 取締役社長)

門脇英晴 (日本総合研究所 特別顧問)

河合 豊 (フライングフィッシュサービス 取締役社長)

陳野浩司 (グローバルMAパートナーズ 取締役社長)

鳴沢 隆 (野村総合研究所 取締役副会長)

廣瀬駒雄 (ディレクトフォース シニアフェロー)

森 哲也 (日栄国際特許事務所 代表社員・所長・弁理士)

木村節也 (NTTシンガポール 取締役社長) ※非会員



を行い、「ASEAN域内に、ASEAN地域そして日本からの投資を呼び込むことは、地域発展の重要な触媒である。中国とインドが台頭する中、日本にとって好ましい投資先であり続けるために、われわれはASEANと日本の関係強化を継続していかなければならない」などと語った。

続いて桜井正光氏があいさつし、「今回のAJBMにおいて、われわれは2つのことを試みようとしている。ひとつは、ASEANと日本が長年取り組んでいる問題の解決である。もうひとつは、この数年で浮かび上がってきた新たな問題に対応するために、両者がグローバル経済の中で担うべき役割を模索していくことである」と述べた。

また、麻生太郎総理からは、「最近結ばれたさまざまなEPAが、日ASEAN関係のさらなる深化・拡大に貢献することを期待している」とするメッセージが寄せられ、紹介された。

さらに、主賓として招かれたモハメド・ボルキア殿下・ブルネイ外務貿易大臣が基調講演を行い、「現在の経済の深刻な危機に際しても、パニックに陥る必要などない。この11年間に取り組んできたことのすべてが、ASEANを強くし、対処する十分なコミットメントがあるからだ」などと語った。

### 3. 第2セッション

第2セッションは「環境・エネルギー問題への取り組み：克服すべき課題と解決策」をテーマとし、日本側からは佐藤龍雄

### ●プログラム

【1日目 (11月2日)】

- 推進委員会議
- 歓迎夕食会

【2日目 (11月3日)】

- プレオープニングセッション  
「日ASEANパートナーシップの促進：産業界は経済連携協定をどう有効活用できるか」  
議長：玉越良介（三菱UFJフィナンシャル・グループ 取締役会長）  
パネリスト：山口千秋（トヨタ自動車 常勤監査役）

○開会式

シャザリ・スレイマン第34回AJBM議長挨拶  
桜井正光経済同友会代表幹事挨拶  
麻生太郎首相メッセージ代読、橋本逸雄駐ブルネイ日本大使  
モハメド・ボルキア・ブルネイ外交貿易大臣基調講演

○セッション2

「環境・エネルギー問題への取り組み：克服すべき課題と解決策」  
パネリスト：佐藤龍雄（昭和電工 取締役専務執行役員）

○セッション3

「新たなリスクと機会への日ASEAN協力」  
パネリスト：鳴沢隆（野村総合研究所 取締役副会長）

○閉会式

萩原敏孝 第34回AJBM共同議長、アジア委員会委員長 挨拶  
ルオン・トゥルン・ヒエウ 第35回AJBM主催国ベトナム代表者 挨拶  
シャザリ・スレイマン第34回AJBM議長 挨拶

○夕食会

【3日目 (11月4日)】

- 推進委員会議
- 記者会見

※各セッションについては日本側参加者のみ記載。敬称略

氏がパネリストとして参加した。佐藤氏は、①公平な国別目標の設定、②共通だが差異のある責任、③革新的な技術開発、④ASEANへの経済・人的支援を含めた技術移転等、という4つの課題について問題提起を行った。

このセッションでは、日本企業や日本が取り組んでいる「3R (reduce, reuse, recycle) 活動」のイニシアティブが共有された。

### 4. 第3セッション

第3セッションは、「新たなリスクと機会への日ASEAN協力」をテーマとし、日本側パネリストとして鳴沢隆氏が参加した。鳴沢氏は、「今回の不況を通じて、ASEANをはじめアジア地域の世界経済に占める地位は一段と高まると予想され、この機にFTA

の推進や経済基盤の強化を加速すべき」との認識を示した。その上で、①GMS (Greater Mekong Subregion) 地域のインフラ整備、産業開発に取り組み、中国からインドにつながる一大経済圏を確立する、②ASEAN各国の重点育成産業の国際競争力強化、③債券市場の整備や教育環境の改善などが急務であると指摘した。

### 5. 閉会式

閉会式では、萩原敏孝共同議長、ルオン・トゥルン・ヒエウ 第35回AJBM議長（ベトナム）、シャザリ・スレイマン議長があいさつを行った。各セッションでの議論の総括が行われ、「各々が各国政府に議論の成果を伝えていくことが望まれる」との確認がなされた。